61　ヨハネ 19 章 1-16 節

※先回の箇所でピラトが口にした「真理とは何なのか」という言葉の答えがこの個所にあらわれているように思います。何とか正しい裁きをしようとするピラト、しかし彼の意志に反したさばきを行ってしまうのでした。苦悩するピラトの姿から学んでみましょう。

1、冒頭「それでピラトは、イエスを捕らえて…」と記されています。これはユダヤ人たちが、怨恨のゆえにイエスではなく、バラバを恩赦の対象に選んだことから、彼らへの見せつけのためにもとられた処置でしょう。それはどんな行為でしたか？（1）
※当時のむち打ちは、先端に動物の骨や金属がつけられた長い皮のひもで打たれたので、すぐに肉体が引き裂かれ、耐えがたい苦痛が全身に走りました。十字架につけられる前に息絶えてしまう人もいたほどです。

2、キリストはなぜむちで打たれなければならなかったのでしょうか？それは旧約聖書が成就するためでした。
・イザヤ 53:4,5 を書き写し、このイエス様が受けた「むち打ち」にも、私たちにもたらしたものがあるので線を引きましょう。

3、2 節、3 節にもイザヤ書に記されていた「苦しめられた」事柄が記されていますが、現在社会にも見られる事柄が見られます。意見を出し合ってみましょう。

4、ここに登場する人々の判断、意見をおさらいしましょう。
・ピラトの出した判断は何でしたか？（18:38）（4）（6）
・ユダヤ人たちの叫び、言葉は？
（6）
（7）
※ここを見れば、イエスが「神の子」という『現れ』はちゃんとなされていたことが分かります。ただ彼らが信じ、受け入れなかっただけであると分かります。
（15）

5、ピラトは自分に権威があると思っていましたが、思ったようにできましたか？
※ほんとうの権威は神にあります。そして、神がこの地上を治めるためにその権威を彼に与えておられるのにすぎないのに、彼は自分に権威があると錯覚していました。ですから彼は神の権威を認めてイエスを釈放すべきだったのに、それをしませんでした。なぜでしょうか？人を恐れたからです。ユダヤ人たちを恐れたのです。自分の立場を守ろうとして正しいことを行いませんでした。そういう意味では彼も、罪を免れることはできません。この人には罪がないと認めていても、結局、彼も多勢にくみすることになってしまいました。

6、今日の箇所には人のうちに見られる真実というか現実が分かります。どんなものがあるでしょうか？意見を出し合ってみましょう。

7、このところから神様（父、子、聖霊）はどのようなお方でしょう。